



Vol.31 by Tomohiro Osaki

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう

日本で起こっていることを外国人に伝えるときは、物事の背景を理解し、わかりやすく説明するスキルが求められる。英字新聞 The Japan Times の記者に、日本の「今」を世界に伝えるためのコツを教えてください。

今月の記者 尾崎智洋さん

2013年ジャパンタイムズ入社。主に司法関連の記事を手がけたのち、政治担当に。外国人問題など、社会的なテーマの記事も数多く手がけている。

Topic 01

日本の若者は恋愛に興味なし？

Nakamura, an 18-year-old university student, is happy to remain single. He says it's much more fun playing video games and chatting via texts all night with his male friends than going on a date.

18歳の大学生である中村さんは、喜んで独身のままでいるという。ゲームで遊んだり、男友達と一晩中チャットでやりとりしていたりするほうが、デートに行くよりずっと楽しいと言うのだ。

異性に関心が持てない「絶食系」が増加中

最近の日本の若者は、恋愛や結婚、性交渉に対して消極的であるという統計があります。日本の人口が減少しているという問題をシリーズで取り上げるにあたり、若者のこうした傾向が少子化の一因となっているのではないかと考え、東京の街で若者の声を聞き、彼らが実際にどう考えているのか、なぜ異性に興味を持つことができないのか、調べてみることにしました。

恋愛に対して積極的になることができない人を「草食系」と呼びますが、最近では「絶食系」といって、異性と付き合うことにまったく関心のない人が増えてきています。私がインタビューした18歳の大学生・中村さん（下の名前は非公開）も、そういった「絶食系男子」の一人でした。「これまで性交渉の経験はないけ

れど、別にそれでもいい。30歳までに結婚できればとも思うが、恐らく無理」と言うのです。

実家暮らしが遠ざける新しい出会いの場

こうした若者が増加している理由のひとつに、恋愛・結婚に対して夢や希望を持つことができないという問題があります。今の日本では結婚しているカップルも性に対して淡泊であるという傾向が見られ、一般社団法人日本家族計画協会の調査によると、夫婦の44.6パーセントが、一定の期間以上性交渉を持っていないとのこと。若者としても、身近なところに「結婚生活」の良い手本が見つからず、夫婦仲良く幸せな生活が待っているという実感を得ることができないようです。

また、就職しても、正規雇用者として安定した収入を確保することが困難となり、若者、特に男性を結婚から遠ざけています。両親と



同居しながら働いているとある派遣労働者の男性は「友達と飲みに行ったり自分の服を買ったりするのもままならないのに、女の子とデートに行けるわけがない」と言います。

今は家でゲームをしたりネットで友達とチャットをしていたりすれば、あまりお金をかけずに休みを過ごすことができます。アニメの中には外見も性格も完璧な女の子が登場し、生身の女性のように傷つけられたり失望させられたりすることもありません。こうしたことも、男性が恋愛や結婚に興味を持つことができない理由となっているようです。

一方、女性のほうは、企業の中で男性と同等の立場で働くことができるようになり、結婚や出産によってキャリアを中断されるのを

好まない傾向があります。また、女性の場合、なかなか出会うことのない「理想の男性」が現れるのを待っているのではないかとこの声もありました。

西洋の国々では、社会に出ると同時に友人とルームシェアをするなどして実家を出ることが多く、就職しても両親の家に住み続けることが多い今の日本の社会とは、大きく異なります。家から出て新しい出会いの場を持つ機会が少ないことも、日本の若者が恋愛や結婚から遠ざかってしまう理由なのではないかと考えました。（談）

*参考記事

<http://www.japantimes.co.jp/news/2016/01/05/national/social-issues/many-young-japanese-marriage-sex-low-priorities/>

Topic 02

厚労省のブラックバイト対策

The Health, Labor and Welfare Ministry has stepped up its fight against black baito, or exploitative part-time jobs, amid claims more firms are underpaying and overworking university students to cut costs.

コスト削減のため、学生アルバイトに十分な給料を払わなかったり残業をさせたりする企業が増えているという声があるなか、厚生労働省は、「ブラックバイト」と呼ばれるアルバイト労働者搾取への対策を強化することにした。

アルバイト先でのトラブル 6割が「経験あり」

残業をしてもその分の賃金が支払われない、正当な権利であるはずの休憩時間が与えられないといった「ブラックバイト」の存在が大きな問題となりつつあり、このところ厚生労働省が、対策を強化しています。

人件費削減のため、企業の労働力は正社員ではなくパートやアルバイト、派遣社員など

非正規雇用者に頼る傾向にあります。学生アルバイトは雇用条件についての知識が不十分であるため、しばしば不当な条件の下で働くことに甘んじてしまうようです。

厚生労働省が1000人の大学生・専門学校生に行った調査によると、58.7パーセントの学生が、労働条件についての詳細を、書面で受け取っていませんでした。また、60.5パーセントが、給料未払いや休憩なしの労働といったトラブルに見舞われたことがあると回

答しています。

非雇用者の意識を持ち労働条件の確認を

こうした現状を踏まえ、厚労省は、学生アルバイトを多く採用しているいくつかの業界団体に、適正な管理を行うようにという要請を送りました。そのひとつが、塾業界です。塾講師は学生の間で人気の高いアルバイトですが、授業で教える以外にも、生徒の質問に答えたり報告書を作成したりといったさまざまな業務があり、それに対する賃金が払われていないということが、以前から問題になっていました。学生の場合、特に、学業との両立が困難になってはならないという懸念があります。「学生の身分である学業と生活補助のためのアルバイトとの適切な両立が求められている」と、同省は業界団体への要請の中で発表しています。

授業料の高騰、一人親家庭の増加による経済力の低下といった社会状況のなか、学生がアルバイトで稼いだお金で授業料や生活費を

払っているケースもあり、不当な条件でも辞めるに辞められず仕事を続けている学生も少なくないようです。

教師らが決めたルールを守っていれば安心した生活を送ることができる学校と異なり、一歩社会に出れば、正しい条件に基づいた雇用が行われているかどうか、一人ひとりが被雇用者としての意識を持ち、自らの労働条件を確認しなければなりません。厚労省は「確かめよう労働条件」というウェブサイトを開発、アルバイトを始めるときや就職する際に確認すべきこと、トラブルがあったときの相談先などを紹介しています。自分の仕事が「ブラックバイト」ではないかと思えるようなことがあったら、一度このサイトでチェックしてみてください。（談）

労働条件に関する総合情報サイト

「確かめよう労働条件」
<http://www.check-roudou.mhlw.go.jp/>

*参考記事

<http://www.japantimes.co.jp/news/2016/01/04/national/ministry-steps-labor-crackdown-overworked-underpaid-university-students/>